



学校だより はんたましい

西原町立坂田小学校
令和6年5月13日
校長 松川 邦昭
児童数 842名



5月号



花薫る五月、子どもたちの 意欲や好奇心を高めた

一学期が始まって早一ヶ月が過ぎました。時の流れは、子どもたちの緊張した心をほぐし、どの学級も和やかな雰囲気になっていきます。

五月は、緊張も少しずつほぐれ、本来の伸び伸びとした様子が見られる頃です。これからが本領発揮といったところででしょうか。マスクを外す子どもたちも増えてきて、さわやかな素顔の笑顔もたくさん見られるようになってきました。

さて、最近では塾やお稽古事に通う小学生も多くなっているようです。そのせいか「塾でのお勉強だけで十分」という意識がどこかに芽生え、自らの意思で勉強する子が減っているかもしれません。

「予習や復習」「家庭学習」の言葉が浸透しづらくなってきましたが、家庭学習での「少しの努力」と「継続」を呼び掛けて参ります。

学校では、子どもたちが受け身の学習ではなく、自ら進んで学習に取り組む「わかる」喜びや学びの成就感が持てるようになって欲しいと考えています。学習への意欲を引き出し、学校生活そのものを「楽しい」と実感して欲しいと思います。子どもたちが「勉強がわかる」「楽しい」と感じられるような取り組みが必要です。自らの意思で学習に向かうことが「わかる」こと、「できる」ことへの入口になれば幸いです。家庭学習の充実に向けて、ご家庭においては「誉めて励ます」の声かけ等をしながら学ぶ意欲を高めたものです。無限の可能性を秘めた子どもたちが、それぞれに精一杯、美しくいろんな花を咲かせて欲しいと切に願います。十九日の日曜授業参観では皆様のお越しをお待ちしております

「良い姿勢」で学習に向かう大切さ

本校では、学習に取り組む前に学習の構えを大切にしています。それが黙想した後に「良い姿勢」です。

腰骨（こしほね）を立てて学習・生活することにより、子どもの主体性を確立し、より良い人間性の確立をねらいとするものです。



腰骨が立つと次の効果があるとされています。

- ①時間のけじめや感受性が高まる。
- ②やる気・集中力が高まる。
- ③心身のバランスが保てる。
- ④身のこなしや振る舞いが美しくなる。
- ⑤内蔵の働きが良くなる。

子どもたちは、日々の授業始後に「良い姿勢」の声かけで黙想して腰骨を立てます。このようなことを継続していく中で「けじめをつけて生活する」「学習に向かう構え」をつくるのが習慣となり、子どもたちの生き方の姿勢として定着していく効果に期待しています。

また、社会性といったソーシャルスキルを身に着けるためにも、姿勢を整えることは大切です。TPO（時間や場所、場面にあった言動を指す略語）日常生活や学校生活でも常識的な礼儀作法を守ることにもいかされることにも繋がっていければと思っています。

「天国と地獄のお箸」の教えとは

5月10日体育館での校長講話は「おもいやりについて」子どもたちは以下の内容を静かに聞いてくれました。

今、みなさんにお話しした「天国と地獄のお箸」を聞いて、みなさんは、何を感じるでしょうか？

天国と地獄の分かれ道は、「自分さえよければ、相手のことはどうだっていい。」と考えるのか、「まずは、相手のことを大事にするのか。」と考えるのか、心の持ち方ひとつで天国と地獄がうまれるのです。

人は得てして、とかく自分本位（自己中心的）になりがちです。でも、このお話が教えてくれるのは、「他を利する」相手のために尽くして、自分も幸せになるということをお話してくれているように思います。

みなさんは、けして一人では生きていけません。人とかかわらない人生は、ありえません。人はいくつになっても、大人になっても、ずっとだれかと、かわりあって生きていきます。そのためには、「思いやり」は必要だし欠かすことはできません。

「思いやりって、なんだろう？」答えを見つけてみませんか。

1年生入学を坂田っ子全員でお祝いしました

1年生と6年生が手をつなぎながら入場して始まった「1年生を迎える会」。各学年の心のこもった挨拶やダンス、プレゼント、ゲーム等しながら1年生の入学を祝いました。1年生は、嬉しそうに満面の笑みでお礼のあいさつを行いました。楽しくて素敵な時間でした。「みんな仲間だよ」どんなこともみんなで力を合わせて乗り越えていくぞ！もっと、もっと「楽しい学校」をみんなの力で創り出していきます。坂田っ子ありがとうございました。